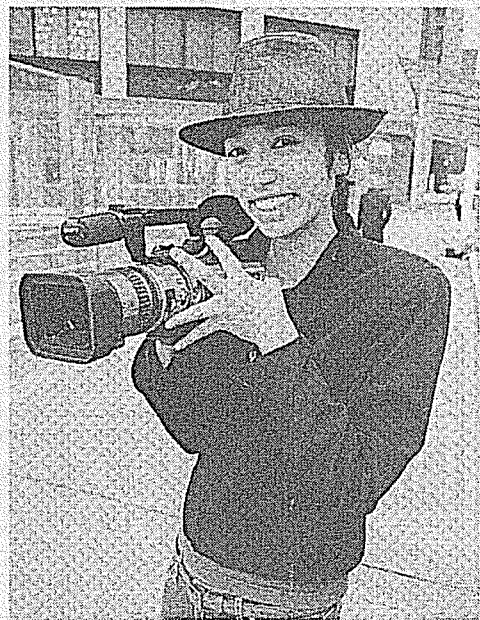


「KIRA」として
住所、氏名、年齢、
〒310-0842 水戸市
FAX 029 (248) 〇〇〇〇

わかもん!

ドルのストリートチルドレンを追ったドキュメンタリー映画「Street Witness」は、そんな印象的なシーンで始まる。監督の梅若ソラヤさん(三巴)は「哀れな子たちという印象ではなく、彼らの力強さを強調したかった」と話す。能楽師の梅若猶彦氏とレバノン人の女性との間に生まれ、三歳のころか



☆ドキュメンタリー映画作家☆
梅若ソラヤさん

哲学者のような一十七歳の少年の証言を中心に構成。大学卒業後、少年の「その後」まで追い掛け、今年三月のマイアミ国際映画祭に出品した。現在は、約半年滞在したブラジルのスラムを舞台にした作品「I am Happy」を編集 중이다。スラムのサンバ教室に通いながら関係を築いた、サンバやヒップホップのダンサー、警察官、メイドらの人生を見つめ、「それぞれの幸福感の概念をドキュメントする作品」になるという。

親しみで無関心と闘う

路上生活を送る幼い少年が、ビデオカメラの前ではにかんでいる。「何年(路上で)働いているの?」。そう問われると、少し考えてから、さらりと答えた。「千年」

終わりが見えない現実への悲しみと、たくましさ同居する瞳。エケテラ能の舞台上に立つてきた。「とても深く詩的な芸術」の世界にもまれつつ、「やりたいことをやりなさい」という両親の後押しで、米プリンストン大に留学した。

大学一年の夏、インタビューで赴いたアフガニスタンで、ストリートチルドレンの施設を訪ねた。母の故郷レバノンで見た路上の子たちの姿と重なる。「私はたまた

ま恵まれた環境にいるだけ。誰もが抑圧する側、される側になりうる」。映画など考えたこともなかったが、手元にあったカメラを回した。帰国後、映像編集に夢中にな

り、約十分の作品に仕上げたのが制作の始まりだ。奨学金を得て、大学三年の時にエケアドルへ行動を共にした「路上の

「登場人物に親しみを感じさせることができれば、無関心と闘える。パッションがある憎しみよりも、私は無関心の方が危険だと思っから」



かるたと日本古来

かるた遊び

ポルトガルから伝

「かるた遊び」は十六の「トランプ」に近く、

かるた」といい、賭け事に用いられたため、江戸時代は禁止されました。花札が解禁されるのは一